

「土砂災害から命を守るために」

千葉県 千葉県立東葛飾中学校 3年 川岸^{かわぎし}和^{のどか}

「助けて、どうしていいかわかんない」

いつものように自宅でSNSを見ていた時、私はとある投稿を目にした。たった一言に添えられていたのは、45秒の動画。そこには今までに見たことのない衝撃的な光景が収められていた。

住宅地の斜面に迫りくる大量のがれき。立ち往生していた車が発進すると、それを追いかけるかのように勢いよく泥流が下っていく。人影のあった向かいの家が崩壊し、周囲はあっという間にがれきに埋め尽くされていった。インターネットで瞬く間に拡散されたその動画はあまりにも生々しかった。

母に促されテレビのニュースを見ると、静岡県熱海市で大規模な土石流が発生したとアナウンサーが緊迫した様子で伝えていた。今もどこかで被害が発生しているのかと思うと、胸が締め付けられた。先程見た動画はこれだったのだ。テレビには凄まじい勢いで住宅地を襲う土石流の様子が映っているが、そのほとんどが同様にSNSに投稿された動画であることに気が付いた。今までの土砂災害では、テレビ局のヘリコプターが大きく崩れた山肌を映す、そんな光景が当たり前だった。投稿された方々のことが気がかりだ。どうか無事でありますように、とただ願った。

あの時の衝撃を忘れられないまま、土砂災害の発生から1か月が経過した。現在も自宅に戻れない方や安否がわからない方もいることを知り、改めて土石流の恐ろしさを感じる。あの時、テレビよりも早く現地の様子を伝えたSNS。近年増加している災害時のSNS利用は被害の縮小に有効なのだろうか。インターネットをよく利用する私は、土砂災害の犠牲者を減らすための効果的な利用法について考えた。

災害時にSNSを利用する最大のメリットは、情報の発信や収集をリアルタイムで行うことができる点である。そこで私が注目したことは、土砂災害の前にみられる前兆現象だ。土砂災害の発生前には何らかの前兆現象が現れることが多く、それらにいち早く気づき早めに避難をすることが命を守るための鍵となる。例えば土石流の場合、「山鳴りがする」「腐った土のにおいがする」「立木が裂ける音や石がぶつかり合う音がする」などが挙げられる。これらの現象は人間の五感によって感じ取れるもので、その場所に住む住民だからこそ気付く異変であると言える。今年7月に発生した熱海市の土砂災害では、土石流の発生前に避難指示が出されていなかった。自治体の避難情報は今年5月に避難勧告が廃止され、5段階のうち警戒レベル4の避難指示に1本化されたばかりだったが、降水量などの情報をもとに発表を見送ったという。「土石流の発生前に雷のような音が聞こえた」「ふだん流れている川が止まっていた」という証言もあったことから、もし住民がこれらの異変を周囲や自治体に共有することができれば、少しでも人的被害を減らす手立てになるのではないだろうか。その際、自治体に連絡したり親交のない近隣住民と話したりすることよりも、SNSへの投稿は誰でも気軽に行うことができる。他の地域の情報をリアルタイムで得ることで、自分が住む地域の危険を早期に予測することも可能である。

一方で、災害時にSNSを活用することにはリスクも伴う。人々の不安を利用したデマが拡散された事例は多く、関係のない過去の写真が投稿されるなど多くの誤った情報が交錯する危険性がある。またSNSの情報に頼りすぎることによって自ら外の状況を確認することを軽んじてしまい、逆に避難の遅れにつながるかもしれない。さらに土砂災害が発生しやすいと言われる山間部にはインターネットを利用しない高齢者が多いことも予想できるため、前兆現象をSNS上で共有することがすべての住民を救うことに直結するとは言い難い。

これらのことを踏まえ、より早い避難を決断するための1つのヒントとしてSNSを利用すべきであると私は考える。危険が迫っている状況を知ることができるとはできるが、あくまでもSNSは情報を得るための手段に過ぎず、普段以上に情報の正誤を見極めなければならない。自らが周囲の景色や普段との違いを確認し危険を察知することが何よりも重要だ。

令和3年度 「土砂災害防止に関する絵画・作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

私は土砂災害に遭ったことはない。自然災害のニュースを見るたびに、自分が危険な状況に置かれたとき正しく判断して自分や大切な人の命を守ることはできるのかと不安になる。緊急時にも平常心を保ち冷静に行動することは難しいが、災害時はそれが必要だ。異変に気付きいち早く安全を確保したり、SNS上の情報に惑わされず有効に利用したりするための判断力を一人ひとりが高めていく努力が欠かせない。